

PBF 定期通信 no.7

2025 年 5 月 30 日発行

Practical Biosafety Forum : 生物安全実践講習会

発信元 : (一財)機能水研究振興財団 / (公財)レイ・パストゥール医学研究センター
生物安全実践講習会 専門委員会
編集担当 清水雅俊・堀田国元

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-20-8 Tel: 03-5435-8501, Fax: 03-5435-8522

E-mail: shimizu@fwf.or.jp ホームページ: <https://kinousui-zaidan.wixsite.com/seibutuanzen>

2025 年度 年間スケジュール

8 月 20～21 日	第 6 回 実践コース B	医療研修施設ニプロ iMEP(滋賀県)
11 月頃	第 3 回 実践コース A	未定
2 月 25～26 日	第 7 回 実践コース B	北里環境科学センター(神奈川県)

● Topics ●

生物安全関連情報 :	CDC・WHO・NIH など	P2
	感染症エクспレス	P3
開催案内 :	第 6 回実践コース B	P4
開催報告 :	第 2 回実践コース A	P5
	第 5 回実践コース B	P6
	第 7 回基盤コース	P7

【お知らせ】

・講習会広報用動画が完成しました。

第 3 回実践コース B 開催時に撮影した動画を 5 分間のダイジェストにまとめた動画を作成しました。
会社の同僚や上司部下、関係する方々へも是非ご紹介ください。

動画は講習会ホームページ、または YouTube へ掲載しています。

講習会ホームページ <<https://kinousui-zaidan.wixsite.com/seibutuanzen>>

YouTube <<https://www.youtube.com/watch?v=0o941n2H6w8&t=21s>>



【 生物安全関連情報 】

◎ 鳥インフルエンザ関連情報

[CDC]

• Highly Pathogenic Avian Influenza A(H5N1) Virus Infections in Humans

(The NEW ENGLAND JOURNAL of MEDICINE)

<https://www.nejm.org/doi/full/10.1056/NEJMoa2414610>

高病原性鳥インフルエンザ A(H5N1) ウイルス感染者が報告された

• Activities and Accomplishments to Date in 2024–2025 H5Bird Flu Response

<https://www.cdc.gov/bird-flu/spotlights/h5n1-response-01172025.html>

2024 年から 2025 年までの CDC の活動と成果 H5 鳥インフルエンザ対策

• Interim Guidance for Employers to Reduce Exposure to Avian Influenza A Viruses for People Working with Animals

<https://www.cdc.gov/bird-flu/prevention/worker-protection-ppe.html>

動物を扱う労働者の鳥インフルエンザ A ウイルスへの曝露を減らすための雇用主向け暫定ガイドライン

関連資料: https://www.cdc.gov/bird-flu/media/pdfs/2024/09/351875-A_FRM_NCEZID_H5N1_Risk_508_2.pdf

[WHO] Updated joint FAO/WHO/WOAH public health assessment of recent influenza A(H5) virus events in animals and people

[https://www.who.int/publications/m/item/updated-joint-fao-who-woah-public-health-assessment-of-recent-influenza-a\(h5\)-virus-events-in-animals-and-people_apr2025](https://www.who.int/publications/m/item/updated-joint-fao-who-woah-public-health-assessment-of-recent-influenza-a(h5)-virus-events-in-animals-and-people_apr2025)

動物とヒトにおける最近のインフルエンザ A(H5) ウイルスの流行に関する FAO/WHO/WOAH 共同公衆衛生評価の更新

◎ NIH (National Institutes of Health: アメリカ国立衛生研究所)

• Benchmarking R&D success rates of leading pharmaceutical companies: an empirical analysis of FDA approvals

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1359644625000042>

大手製薬会社の研究開発成功率のベンチマーク: FDA 承認の実証分析

これまで臨床開発の成功率は約 10% という業界ベンチマークが示されている。しかし 18 社が実施した 19,927 件の臨床試験 (06–22 年)、および 274 件の新薬承認などのより詳細な分析により、成功率は 14.3% であることが判明。その分析の詳細を記す。

◎ その他

• REPORT: The Biden–Harris Administration Roadmap for Pandemic Preparedness and Response

<https://bidenwhitehouse.archives.gov/briefing-room/statements-releases/2025/01/14/report-the-biden-harris-administration-roadmap-for-pandemic-preparedness-and-response/>

バイデン・ハリス政権のパンデミック対策と対応のロードマップ

バイデン大統領は、1 世紀以上で最悪の公衆衛生危機に直面しながら就任した。このレポートは、バイデン・ハリス政権が米国内および世界規模で COVID-19 と戦うために講じた数多くの措置の概要を示しており、米国が将来パンデミックや公衆衛生上の脅威に効果的に対応する方法のロードマップとして役立つ。

• Advances in human norovirus research: Vaccines, genotype distribution and antiviral strategies

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0168170224001795>

ヒトノロウイルス研究の進歩: ワクチン、遺伝子型分布、抗ウイルス戦略

ノロウイルスは非細菌性急性胃腸炎の病原体として広く認識されており、その主因であると考えられている。ノロウイルスは主に糞口感染であるが、空気感染することもある。本論文では、ノロウイルスの性質、感染経路、臨床症状、免疫応答メカニズム、ワクチン研究について論じる。

◎ 感染症エクスプレス Vol.537 @厚労省

【トピックス】

- ◆百日咳、伝染性紅斑の注意喚起発出に伴い、各啓発用チラシを掲出

百日咳、伝染性紅斑の感染拡大に伴い、厚生労働省 HP の TOP ページに「注意喚起」を掲出。合わせて、啓発ツールを準備。

- ・百日咳

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/whooping_cough.html

- ・啓発ツール

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/keihatsu_tool.2024.index.html

- ・伝染性紅斑

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/fifth_disease.html

【新型コロナウイルスについて】

2025 年第 19 週(5/5～5/11)における定点当たり報告数は、0.94(報告数 3,604 件)

- ・報道発表資料について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00474.html

【インフルエンザについて】

2025 年第 19 週(5/5～5/11)における定点当たり報告数は、0.67(報告数 2,580 件)

※定点が 2 週連続で「1」以下となったため、今シーズンにおける「インフルエンザの発生状況について」の定期的な公表は、今週をもって終了。来シーズン(2025/2026 シーズン)のインフルエンザの発生状況に関する公表については、令和 7 年 9 月からの開始を予定。

- ・報道発表資料について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou01/houdou_00018.html

【お役立ちリンク集】

- ◆IDWR 2025 年 第 17・18 週(第 17・18 合併号)(2025 年 5 月 16 日発行)

RS ウイルス感染症の定点当たり報告数は第 2 週以降増加。過去 5 年間の平均と比較してかなり多い
<IDWR 感染症発生動向調査週報>

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/jp/idwr/2025/index.html>

- ◆IASR Vol.46, No.5(No.543)

腸管出血性大腸菌感染症 2025 年 3 月現在

モツ鍋店利用者の O157 食中毒事例について／茨城県内保育園における腸管出血性大腸菌 O157 による集団感染事例—茨城県／保育施設での腸管出血性大腸菌 O111 による集団感染事例 他

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/index.html>

- ・IASR 速報記事

東京都の小児病院におけるマクロライド耐性百日咳菌感染症例の検出(2025 年 5 月 27 日)

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/IASR/Vol46/543/543p01.html>

- ◆厚生労働省検疫所(FORTH):海外の感染症情報

侵襲性髄膜炎菌感染症—サウジアラビア王国(2025 年 4 月 11 日)

https://www.forth.go.jp/topics/2025/20250509_00001.html

【開催案内】



生物安全実践講習会 第6回 実践コースB

募集中

日程：令和7年 8月27・28日(水・木) 2日間(各日 9:00～17:00)

会場：医療研修施設「ニプロ iMEP」

【アクセス】JR 南草津駅(京都駅より新快速 17 分)より徒歩約 3 分

内容：病原体の取扱い・管理のために必要な

法令を含めた先進的知識と技術に関する座学と実習

受講料：1 名 35,000 円(テキスト事前配布)

申込方法：生物安全実践講習会ホームページの「開催案内」より

< <https://kinousui-zaidan.wixsite.com/seibutuanzen> >

事務局：生物安全実践講習会 担当 清水雅俊(kinousui-zaidan@fwf.or.jp)

講習会ホームページ



【予定プログラム】

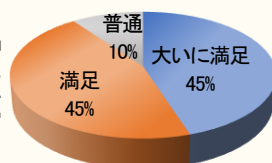
	区分	題目	座学講師・実習指導者
座学	ガイダンス	講習会概要	堀田 国元 機能水研究振興財団 理事長
	座学 1	感染制御概論Ⅰ-細菌-	矢野 寿一 奈良県立医科大学 教授
	座学 2	感染制御概論Ⅱ-ウイルス-	呉 成旭 ルイ・パストゥール医学研究センター 研究部長
	座学 3	病原体の消毒・殺菌および滅菌	堀田 国元 元国立感染症研究所生物活性物質部 室長
	座学 4	One Health からみた 薬剤耐性菌の現状と課題	浅井 鉄夫 岐阜大学 教授
	座学 5	医薬品製造における汚染防止対策と GMP	佐々木 次雄 元国立感染症研究所細菌第二部 室長
	座学 6	遺伝子組換え生物等の利用と安全対策	辻井 栄作 京都大学総合研究推進本部
	座学 7	遺伝子関連検査と安全対策	林 邦彦 (株)池田理化 / PCR感染症検査研究会
	特別講演	今知っておくべき新知識・新情報 生物安全、バイオエアロゾルに注目して	藤田 直久 京都府保健環境研究所 所長
実習	実習 1	病原体の輸送・梱包および漏洩時対応	伊木 繁雄 国立感染症研究所安全管理研究センター 主任研究官 鹿住 祐子 元結核予防会結核研究所抗酸菌部結核菌情報科 霜島 正浩 (株)スギヤマゲン
	実習 2	個人防護具 (PPE) の着脱	アゼアス(株)
	実習 3	遺伝子関連検査の基本操作と安全対策	林 邦彦 (株)池田理化 / PCR感染症検査研究会
	実習 4	安全キャビネットの構造と管理他	関口 勝美 (株)アルパーネット代表



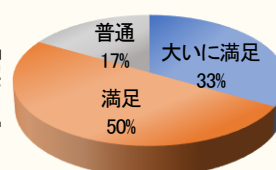
＜受講生の声＞

講習会満足度

『座学』



『実習』



【開催報告】

◆ 第2回実践コース A

日時：令和7年2月1-2日(土:13:30-18:00、日:9:30-15:00)

会場：山口県歯科医師会館

[アクセス：湯田温泉駅から徒歩20分]

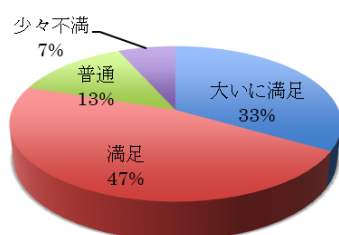


プログラム

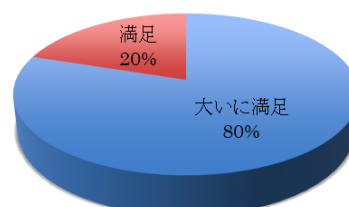
	区分	題目	座学講師・実習指導者	
第1日目	ガイダンス	講習会概要	堀田 国元	機能水研究振興財団 理事長
	座学 1	病原体概論Ⅱ -細菌-	中野 隆史	大阪医科薬科大学医学部 教授
	座学 2	病原体概論Ⅱ -ウイルス-		
	座学 3	感染制御概論	大石 智洋	川崎医科大学 教授
	特別講演	One Health から見た 薬剤耐性菌の現状と課題	石井 良和	広島大学 特任教授
第2日目	座学 4	病原体の消毒・殺菌および滅菌	堀田 国元	元国立感染症研究所生物活性物質部 室長
	座学 5	歯科診療室における感染対策	中村 太志	九州歯科大学歯学部 助教授
	実習	衛生的手洗い	サラヤ株式会社・ニプロ株式会社	
		ATP 拭き取り検査	キッコーマンバイオケミファ株式会社	
		生菌の顕微鏡観察	株式会社 mil-kin	
		个人防护具の装着(マスク)	興研株式会社	

アンケート

座学満足度



実習満足度



◆ 第5回実践コースB

日時：令和7年2月19～20日(水～木) 各 9:00～17:00

会場：医療研修施設ニプロ iMEP

[アクセス：南草津駅から徒歩3分]

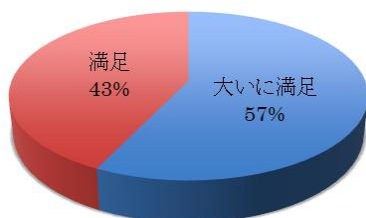


プログラム

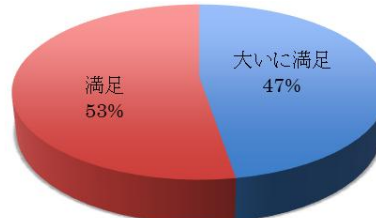
	区分	題目	座学講師・実習指導者	
第1日目	ガイダンス	講習会概要	堀田 国元	機能水研究振興財団 理事長
	座学 1	感染制御概論Ⅰ-細菌-	矢野 寿一	奈良県立医科大学 教授
	座学 2	感染制御概論Ⅱ-ウイルス-	呉 成旭	ルイ・パスツール医学研究センター 研究部長
	座学 3	病原体の消毒・殺菌および滅菌	堀田 国元	元国立感染症研究所生物活性物質部 室長
	座学 4	One Health からみた動物および 環境由来薬剤耐性菌の現状と課題	田村 豊	酪農学園大学 名誉教授
	座学 5	医薬品製造における安全対策と GMP	佐々木 次雄	元国立感染症研究所細菌第二部 室長
	座学 6	遺伝子組換え生物等の利用と安全対策	辻井 栄作	京都大学研究推進部研究規範マネジメント室
	座学 7	遺伝子関連検査と安全対策	林 邦彦	(株)池田理化 / PCR 感染症検査研究会
	特別講演	生物安全 バイオエアロゾルに注目して-	田 直久	京都府保健環境研究所 所長
第2日目	実習 1	病原体の輸送・梱包および漏洩時対応	伊木 繁雄 鹿住 祐子 霜島 正浩	国立感染症研究所安全実験管理部 主任研究官 元結核予防会結核研究所抗酸菌部結核菌情報科 (株)スギヤマゲン
	実習 2	個人防護具(PPE)の着脱	アゼアス株式会社	
	実習 3	遺伝子関連検査の基本操作と安全対策	吉澤 重克	元千葉県家畜衛生研究所 主幹
	実習 4	安全キャビネットの構造と管理他	関口 勝美 木ノ本 雅通	(株)アルバーネット代表 元国立感染症研究所細菌・血液製剤部 主任研究官

アンケート

座学満足度



実習満足度

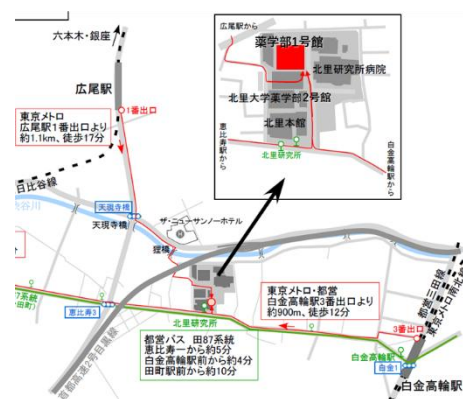


◆ 第7回基盤コース

日時：令和7年3月18日(火) 9:00～17:00

会場：北里大学白金キャンパス 薬学部1号館

[アクセス：白金高輪駅から徒歩12分]



プログラム

	区分	題目	座学講師・実習指導者	
午前	ガイダンス	講習会概要	堀田 国元	機能水研究振興財団 理事長
	座学1	感染症概論	木ノ本 雅通	元国立感染症研究所 主任研究官
	座学2	病原体概論Ⅰ-細菌-	高山 陽子	北里大学医学部 教授
	座学3	病原体概論Ⅱ-ウイルス-	野田 衛	国立医薬品食品衛生研究所 客員研究員
	座学4	感染防御概論Ⅰ-感染経路-	堀田 国元 立石 亘	機能水研究振興財団 理事長 迅速検査研究会
	座学5	感染防御概論Ⅱ-殺菌・消毒-	岩澤 篤郎	東京医療保健大学 教授長
	特別講演	新型コロナウイルス感染対策の虚実-	花木 秀明	北里大学大村智記念研究所 感染制御センター長
午後	実習	衛生的手洗い	サラヤ(株)	
		ATP ふき取り検査	キッコーマンバイオケミファ(株)	
		生菌の顕微鏡観察	(株)mil-kin	
		個人防護具の装着(マスク)	興研(株)	

アンケート

座学満足度



実習満足度

